

下野市
小中連携教育の実践
(平成20年度～平成27年度)

下野市教育委員会

研究課題 小・中学校の継続性・系統性のある教育活動の推進

平成20年度

1 目 標

- (1) 交流授業を通して教科内容や指導方法の系統性について、研究協議を十分に行う。
- (2) 連続した子どもの育ちを知り、発達段階に応じた指導を行えるようにする。
- (3) 異年齢の共同の学びの場を設定し、社会性の伸張を図る。

2 計 画

平成19年度	内部チームによる先進校視察
平成20年度	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 算数・数学の系統性の研究
平成21年度 ～	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 英語等の系統性の研究 教科・領域別研究 小中教員の交流日の実施 プロジェクトチームによる成果・課題の確認 モデル校の研究推進及び実践の準備

3 研究内容

- (1) 小中連携コーディネーター（学習指導主任）等を中心に、交流授業を企画実施し、研究協議を行う。
 - ・ 小中それぞれの教育観・教育活動を知る。
 - ・ 教科内容の系統性を確認する。
 - ・ 互いの指導方法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ・ 児童生徒指導の継続について、情報交換する。
 - ・ 個人データの有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもが触れ合うことにより、社会性など様々な感性をはぐくむ。
 - ・ 児童生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
 - ・ 小学生が安心して中学校へ進学できるよう、早くから中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ・ 小中合同で活動する授業を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。

平成 2 1 年度

1 目 標

- (1) 交流授業や交流日を通して、教科内容や指導方法の系統性について、研究協議を十分に行う。
- (2) 交流日を通して、連続した子どもの育ちを知り、発達段階に応じた指導を行えるようにする。
- (3) 異年齢の子どもの共同の学びの場を設定し、社会性の伸張を図る。

2 計 画

平成 2 0 年度	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 算数・数学の系統性の研究
平成 2 1 年度	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 小中教員の交流日の実施における成果・課題の確認 英語等の系統性の研究 ----- プロジェクトチームによる成果・課題の検証 モデル校の指定及び研究推進の準備
平成 2 2 年度 ～	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 小中教員の交流日の実施における成果・課題の確認 児童生徒の交流における成果・課題の確認 各教科・領域の系統性の研究 取り組み事例の紹介 ----- プロジェクトチームによる成果・課題の検証 モデル校の研究推進及び成果・課題の検証 等

3 研 究 内 容

- (1) 小中連携コーディネーター（学習指導主任）等を中心に、交流授業・交流日を企画実施し、研究協議等を行い、自校の教育に生かす。
 - ・ 小中それぞれの教育感，教育活動を知る。
 - ・ 教科内容の系統性を確認する。
 - ・ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り，生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ・ 児童・生徒指導の継続性について，情報交換する。
 - ・ 個人情報の有効活用によって，個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより，社会性など様々な感性をはぐくむ。
 - ・ 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう，柔軟な心づくりに努める。
 - ・ 小学生が安心して中学校へ進学できるよう，早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ・ 小中合同で活動する授業を取り入れ，思いやりやあこがれの気持ちを育て，子どもの主体的な活動の活性化を図る。

平成 22 年度

1 目 標

- (1) 交流授業や交流日を通して、教科内容や指導方法の系統性について、研究協議を十分に行う。
- (2) 交流日を通して、連続した子どもの育ちを知り、発達段階に応じた指導を行えるようにする。
- (3) 異年齢の子どもの共同の学びの場を設定し、社会性の伸張を図る。

2 計 画

平成 20 年度	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 算数・数学の系統性の研究
平成 21 年度	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 小中教員の交流日の実施における成果・課題の確認 英語等の系統性の研究 ----- プロジェクトチームによる成果・課題の検証 モデル校の指定及び研究推進の準備
平成 22 年度 ～	小中の交流授業の実施における成果・課題の確認 小中教員の交流日の実施における成果・課題の確認 児童生徒の交流における成果・課題の確認 各教科・領域の系統性の研究 取り組み事例の紹介 ----- プロジェクトチームによる成果・課題の検証 モデル校の研究推進及び成果・課題の検証

3 研 究 内 容

- (1) 小中連携コーディネーター（学習指導主任）等を中心に、交流授業・交流日を企画実施し、研究協議等を行い、自校の教育に生かす。
 - ① 小中それぞれの教育観，教育活動を知る。
 - ② 教科内容の系統性を確認する。
 - ③ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り，生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ① 児童・生徒指導の継続性について，情報交換する。
 - ② 個人情報の有効活用によって，個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより，社会性など様々な感性を育む。
 - ① 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう，柔軟な心づくりに努める。
 - ② 小学生が安心して中学校へ進学できるよう，早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ③ 小中合同で活動する授業を取り入れ，思いやりやあこがれの気持ちを育て，子どもの主体的な活動の活性化を図る。

平成22年度 小中交流授業・交流日の報告（感想）

*先生方の報告から抜粋

小学校→中学校 学習面

- ・国語の文法は、小学校の学習が活かされている。意味調べは、小学校時代の習慣化が大切である。
- ・小学校の復習+αでの歴史学習が楽しそうであった。
- ・グループ活動が頻繁に実施されており、話し合い活動を有効に取り入れていた。
- ・教科担任制は生徒には新鮮で、さほど問題にはならないと思う。
- ・生徒の発言を生かした授業、生徒同士の学び合いを生かした授業であった。
- ・夏休みの学習をどう計画し実行できるかで、その後の学習が決まるとの話を聞いた。
- ・男女関係なくペア学習やグループ学習に仲良く取り組んでいた。
- ・つまづいている生徒のフォローが難しそう。
- ・授業の進度が速く受け身ではついていけない。小学校から自主的な学習態度を育てることが大切。
- ・全員が理解しているか少し疑問に感じた。
- ・他教科の先生が授業研究会に参加していて、広い意見が出され有意義であった。
- ・教科連絡などのシステムが確立されていた。

中学校→小学校 学習面

- ・「さんすうはかせ」はやく、かくじつに、せいかくに。数学的な考え方のよさにもつながる。
- ・教師の質問に対する反応がよい。
- ・お互いの作品を鑑賞し、互いのよさを認め合う姿が見られた。
- ・英語活動では、電子黒板を効果的に使用していた。
- ・英語の視覚教材などにより、意欲的に勉強していた。
- ・e-ラーニングを用いた問題演習に積極的に取り組んでいた。先生方が熱心に研究し、丁寧に指導する姿が印象的だった。
- ・授業中、騒がしくしてしまう児童を注意する児童が見られた。
- ・近くの友達に教えたり、わからないときは自由に席を動く時間があり、有効であった。
- ・自然と教え合う雰囲気ができている。
- ・学習のめあて・課題や流れが提示されていた。
- ・発表の仕方がきちんとしており、基礎がきちんとしてきて中学校へ入ってくると感じた。
- ・手立てとして活動のヒントがたくさん出されていて、中学校で支援の必要な生徒に役立つと思った。
- ・机間指導時に丸付けをしたり、評価簿に評価している。
- ・教師が話しすぎるときは生徒が活動していないという証拠なので、自分の授業をビデオにとって検討するとよいという意見が出た。

小学校→中学校 生活面

- ・心配していた不登校気味の生徒の様子を聞くことができた。
- ・休み時間にあまり校庭に出ている姿は見られなかった。
- ・生徒との距離をうまくとり信頼関係を築きながら、自主的に活動させていく難しさを感じた。
- ・あいさつがとても良くできていてすばらしい。

- ・テストに向けて授業中に何回も説明があり、自主的な学習習慣を身につけていかなければならないと感じた。
- ・授業中の姿勢や鉛筆の持ち方など気になる生徒がいたが、小学校で身につけなければならぬと感じた。
- ・小学校のように手をかけて指導することでなく、自主性に任せていた。小学校高学年でも少しずつ自主性に任せる活動を多く取り組ませることを増やし、中学校も発達段階に合わせた丁寧な活動を心がけるべきではないか。小中のギャップが大きいので、小中が活発に交流し指導方法を考えていくべきだと思った。
- ・無言清掃を取り入れ、教師の指示がなく、自主的に清掃していた。
- ・生活習慣や学習習慣がきちんと身につけており、けじめのある落ち着いた生活であった。
- ・生徒指導の先生が朝の生徒の様子、授業中などを見回っていた。廊下にいていつでも動ける体制を取っているとのことであった。
- ・清掃中、自ら仕事を探している生徒が多かった。
- ・新聞の切り抜きから感じた自分の意見を、きちんと発表していた。
- ・全体的に緊張感があり、きびきびとした行動が見られた。
- ・学年間での結束が強く、隣のクラスで行っていることに目を配りながら全体で学年を見ていこうとする姿が見られ、すばらしいと感じた。
- ・部活動では担当の先生が来る前に生徒達が準備をして練習を始めていて、授業とは違う表情が見られた。先輩後輩の関係がよく、伝統が受け継がれていると感じた。
- ・話を聞くだけではよくわからない中学校の様子が、実際に見ることによって理解できた部分が多かった。小中間の交流は今後も実施していくべきだと感じた。
- ・子ども同士のトラブルは、他者とコミュニケーションがうまくとれないことが原因であるという点で、小中が同じであった。
- ・年々発達障害等の子どもが増え、中学校でもその対応に悩んでいるところ。小中で連携し情報交換をしながら取り組んでいく必要がある。

中学校→小学校 生活面

- ・担任が、朝から、課題の提出に丁寧に対応していた。朝の会で歌を歌う。
- ・朝の読書は、小学校と中学校で同じ状態で静かに取り組んでいた。
- ・給食の準備片付けなど、中学校でスムーズにできることは小学校で訓練されていると感じた。
- ・また機会があれば参加してみたい。
- ・学習訓練、生活態度への支援を細かく行っていた。
- ・給食では全員が素早く白衣に着替えていた。
- ・縦割り清掃で学年を越えた交流が図られるよう工夫されていた。上級生が下級生の面倒をみている場面が多かった。
- ・宿題や行事について、帰りの会で細かく説明している。
- ・全体的に落ち着いた雰囲気、あいさつ等生活態度もよく躰が行き届いていた。
- ・朝の会では、健康観察で担任と児童が目を合わせてコミュニケーションをとっていた。
- ・6年生から部活動についての質問が多かった。興味をもっている児童が多い。
- ・しっかりと愛情をこめて指導しているという感じがした。全職員が全児童にかかわりをもち、児童をのばそうとしている姿がすばらしい。
- ・好奇心が強く真剣に取り組む姿が随所に見られる。中学生になっても目の輝きが持続するよう指

導すべきと身の引きしめる思いがした。

- ・板書ではなく、パソコンや絵カードによる連絡の提示をしていた。
- ・中学校で問題行動を起こす生徒は小学校就学時からその傾向にある。家庭支援を含め小中の連携が大切である。
- ・歯磨きの習慣がある。休み時間に校庭で遊ぶ児童が多い。
- ・他の児童の話に体全体を向けて聞くという姿勢であった。
- ・担任が連絡帳をひとりずつチェックする。
- ・保健室へ意味もなく通う児童が増えてきたという。中学校と連携して早期解決を図りたい。
- ・T2は説明不足だと感じる児童には必要な存在だと感じた。
- ・業間に体育館で音楽集会。下級生ほど声が大きかった。

教職員交流の成果と課題

- ・1日交流では、心配していた配慮児の様子を聞くなど、日頃できない情報交換の時間をもてた。
- ・先生方が、互いの児童生徒の実態や先生方の教育観を知り、自校の子どもの学びや育ちの系統性を考えるよい機会となっている。
- ・中学校の休み時間には、小学校教員と卒業生が有意義な会話ができる。
- ・交流の時間の確保が難しい。
- ・多くの先生方が、「機会があればまた交流したい」という感想をもっていることから交流における成果は大きく、今後この交流をどのように拡大していくかが課題。

研究推進モデル校の実践 ～ 国分寺小学校と国分寺中学校の交流 ～

1 児童生徒の交流における取組

(1) 国分寺中学校合唱コンクール (6/25実施)

国小の5・6年生が国分寺中の合唱コンクールに参加し、中学1・2年生の歌を視聴。

【参加児童感想】

5年女子・・・中学生の合唱は、ソプラノ・アルトがきちんとハモっていてとてもきれいだった。合唱部の練習をがんばり中学生のようなきれいな歌を歌いたいと思った。

6年男子・・・中学生が朝早くから練習を重ね団結力をつけていったことが、一曲一曲の発表から聴き取れた。練習をたくさんして、来年あんなにかっこいい中学生になりたい。

6年女子・・・どの歌にも思いや願いが詰まっていたかっこよかった。来年、私達も歌うんだなあと思うと、今から中学生生活が楽しみだ。



参加したほとんどの児童が中学生の合唱に感動したという感想だったが、6年生の感想には、中学校入学後への期待する言葉が多数みられた。

(2) 国分寺小学校音楽集会 (6/28実施)

次週の国分寺小学校音楽集会に、国分寺中学校合唱コンクールで聴くことのできなかった中学3年生の最優秀賞と金賞のクラスが参加。始めに「Peace in Harmony」を2クラスの生徒が歌い、続いて最優秀賞の「あなたへ」・金賞の「あなたは風」の発表をした。指揮者や伴奏者が卒業生でもあり、成長の様子を喜んでいた先生もいた。

小学生は全員で、クラスで練習を重ねてきた「友だちになるために」の曲を披露した。蒸し暑い体育館の中での集会だったが、美しいハーモニーと大きな声が元気いっぱい体育館に響き合う集会となった。

(3) ふるさと体験 (職場体験) (11/11・12実施)

国分寺中学校の2年生が国分寺小で2日間過ごした。3名の女子が1年2年3年のクラスに入り、「朝の会」から「帰りの会」まで、国分寺小の児童と一緒に過ごした。最後の日には、各クラスでお礼の時間を設け、クラスによっては手紙等のプレゼントを渡していた。

【国分寺小児童感想】

・一緒に遊んでくれてありがとう。一緒に秋を見つけに行って楽しかった。また、あえるといいね。さようなら。ぼくは一生忘れないよ。

・しおり先生へ

英語の授業を教えてくれてありがとう。

はじめて来たときは、本を読んでくれてありがとう。

一緒に遊んでくれてありがとう。

やさしくしてくれてありがとう。

大好きだよ。また来てね。



【国分寺中生徒感想】

・英語の授業をやらせていただいた。緊張したが、みんなが自分の発音に続いて発音してくれたのが、本当にうれしくてすごくいい体験ができた。

・2日間を振り返って、自分たちが先生にたくさん迷惑や苦勞をかけていたことがよくわかった。この体験で学んだその大変さを胸に自分の夢である、高校の英語の先生になるために今からがんばりたいと思う。

この職場体験を通して、中学生が多くの子どもたちや先生方とふれあい感謝し、自分の夢を実現するための目標を実感できたと思う。さらに、自己存在感や自己有用感が育まれ、児童・生徒の心が豊かに熟成されていくことを窺い知ることができた。

(4) 国分寺中新入生オリエンテーション (12/9)

全体会では、第2学年合唱「桜の下で」を聴き、その後に中学校の生活についての説明があった。全体会の後は、授業参観が全教室で実施された。その後、部活動見学をしたりして4月に入学する中学校の様子を具体的に実感することができたようだ。

(5) あいさつ運動

国分寺小では、年間7回登校班が交代で一週間毎に実施している。国分寺中では、生徒会本部役員や生活安全委員会が毎日昇降口で実施している。

この活動を国小・国中の間にある通学路で一緒に行った。



【児童生徒感想】

- ・小学生・・・中学生の声が大きく、見習って元気に声を出そうと頑張ってみて気持ちよかった。
- ・中学生・・・挨拶ができる人とできない人がいるけれど、自分も小学校のときはできなかったなあと思った。

あいさつ運動を一緒に行ったが、回を重ねるにつれ違和感なく誰にでも挨拶ができるようになってきている。

2 教職員の交流における取組

(1) 夏期研修会

① 栃木西中 佐藤義明教頭先生をお招きして

文科省の指定研究校（H17-19）皆川城東小学校と皆川中学校小中一貫教育研究の概要と経緯についての紹介。

〈研究構想〉

- 学習内容の系統的整理と効果的な指導
- コミュニケーション能力の育成
- 児童生徒の積極的交流・情報交換体制
- 社会性・豊かな人間関係を築く力の育成
- 社会に貢献し主体的に生きる力の育成

「授業研究」を通しての単元開発と検証授業は多くの回数を重ねたが結果としては良かったということ、また、授業を見た後での意見交換が重要であること等、貴重な話を聴くことができた。

② 情報交換会

- ◆児童生徒指導部会・・・あいさつ運動・生徒指導目標・配慮児について等
- ◆教育相談部会・・・不登校児童生徒問題について等
- ◆学習指導部会・・・学習における身に付けておいて欲しいこと等
- ◆学級経営部会・・・学級目標・組織・掲示の工夫について等

【研修会感想】

講 話

- ・小中一貫教育についての意識が強くなった。
- ・佐藤先生のお話は、苦勞されながら進められた研究・実践であるため、とてもわかりやすいし、共感できるものだった。

情報交換会

《小学校の先生方から》

- ・情報交換会はとても役に立ち楽しい時間だった。
- ・どのような内容を話せば有意義かと研修前は考えたが、やはり具体的な授業や指導の場面が一番参考になった。

《中学校の先生方から》

- ・初めての機会だったが、時間が足りないくらいたくさんの方が話し合えた。
- ・すぐ隣にありながら、なかなか接点のない状況だったが、お互いの学校での学級経営状況や指導の方針を現場レベルの情報として交換できてよかった。このような機会があると、系統的な指導に近づいていくと思う。



〈学習指導部会の様子〉

下小研の後の午後の研修会だったが、時間が足りないと感じるほどの充実した研修となった。

(2) 授業研修会

① 授業研究会の計画的な参加

- 国分寺小と国分寺中では、要請訪問やS&U授業研究会等の校内研修一覧をお互いの学校で出し合い、できれば全員一回はそれぞれの授業研究会に参加するように計画・実施を図った。

② 学校応援チーム派遣事業授業研修会

- 栃木県教育委員会主催で学校の授業改善に向けた取組を支援し、学力向上を図るための研修会で、各校の研究課題に加え、小中連携を考えた支援である。今年度は、国分寺中学校区が指定であった。

小中一貫教育推進事業 モデル校における連携について

1 モデル校における教員の交流									
(1) 小中連携推進									
内 容	期 日	場 所	参 加 者						
・要請訪問、校内研修一覧を互いに出示。 できれば全員1回は参加する。	随 時	国分寺小・国分寺中	各校教員 研修計画に基づき実施						
国 小 学 区				授業研究会参加 (国分寺小・国分寺中)					
1 8/28(水)	2-2回	4-2学年	校内研修						
2 8/16(水)	2-1回	4-1学年	校内研修						
3 8/30(水)	2-2回		S&U方式	算数・国語					
4 7/7(水)	1-2回		S&U方式	国語					
5 9/15(水)	1-2回	4-2学年	校内研修						
6 10/27(水)	2-2回	4-2学年	S&U方式	算数・国語					
7 11/10(水)	2-2回	4-2回	校内研修						
8 11/24(水)	2-2回		S&U方式	算数・国語・国語					
9 12/8(水)	6-2回		応援チーム	小澤・入江・上野・石橋・尾花・石橋					
10 12/15(水)	3-1回	5年 国語	校内研修						
11 1/12(水)	1-1回	5-2学年	校内研修						
12 4/26(水)	5-2回		S&U方式	算数・国語・国語・算数					
13 2/2(水)	2-1回	国分寺1回	1-2学年	校内研修					
国 中 学 区				授業研究会参加 (国分寺小・国分寺中)					
1 8/2(水)	1年 国語	2年 国語	3年 算数	校内研修 国語					
2 7/7(水)	2年 国語	3年 国語	4年 算数	応援チーム 国語、小澤、石橋、石橋、尾花					
3 9/15(水)	1年 国語	2年 国語	3年 国語	校内研修 国語、算数、国語、算数、国語、算数					
4 8/16(水)	1年 国語		応援チーム	国語、算数、国語、算数、国語、算数					
5 10/13(水)	1年 国語	2年 国語	3年 算数	校内研修 国語、算数、国語					
6 12/2(水)	1年 国語		応援チーム	国語					

・日時

回数	期 間	会 場	内 容	教 科
1	7 / 7 (水)	国分寺中学校	研究授業・授業研究会	数学 (2・3年)
2	9 / 16 (木)	国分寺中学校	研究授業・授業研究会	数学 (1年)
3	12 / 6 (月)	国分寺小学校	研究授業・授業研究会	算数 (6年)
4	12 / 8 (水)	国分寺東小学校	研究授業・授業研究会	国語 (3・6年)
5	2 / 2 (水)	国分寺西小学校	研究授業・授業研究会	算数 (6年)

・指導者

栃木県教育委員会学校教育課 栃木県総合教育センター 下都賀教育事務所 等の副主幹，指導主事

・内容

第2回の国分寺中1年生の数学の授業は，小学校5年生の学習の延長を意識しての「文字と式」の内容であり，第3回の国分寺小の6年生算数「比」の授業は，中学校での「比例・反比例」へのつながりや中学校から一部移行してきた「文字を用いた式」も積極的に活用した授業を実施。

このように，特に算数・数学における系統性を踏まえ「学び」の連続性を確認する研修となっている。また，小学校・中学校との縦のつながりばかりでなく，各小学校の授業を参観することにより，「指導法」の研修が横へのつながりにも広がっている。



〈6年生算数授業の様子〉

③ その他の交流

学校周辺の徒歩や自転車による登下校のきまりについての話合いや，国分寺中学校区のいじめ問題の情報交換会等の実施。

3 施設・設備活用の交流について

- (1) 平成21年度の国分寺小の校庭整備の際，国分寺中校庭の空いている時間に小学校の体育の授業や昼休みの外遊びの実施
- (2) 本年度においても，クラブの時間に国中校庭の借用
- (3) 運動会でのテント等の貸し借りやお互いの駐車場の利用等



〈国分寺中の校庭〉

4 実践の成果と課題

(1) 成果

①児童生徒の交流

- それぞれの活動がお互いに刺激し合い相乗効果がみられた。
- 中学校生活への不安を多少なりとも取り除くことができた。

②教職員の交流では

- 児童生徒への理解が深まった。特に夏期研修で実施した「小中交流」は、大変効果があり教師間の相互理解の場となった。
- 授業実践の公開・協議では9年間を見通したカリキュラムの構築に目を向けた研修ができた。
- 教育実践の意欲喚起につながった。

(2) 課題

- ① 児童生徒の意識の変化を年度当初と終わりで具体的に実証し、より効果的な交流を進めたい。それにより、中一ギャップの解消や学力向上のための学習の円滑な継続等、9年間の児童・生徒の連続した発達成長・学力保障に、さらに目を向けていきたい。
- ② 日程調整が難しく小さな事でもなかなか実現できないので、連絡調整を密に行い年間を見通して早めに計画を立てたい。諸活動が違和感なく、通常のこととして日常的に取り組めるよう努力していきたい。

